

資料 1

刈払機の 安全な使い方について

林業・木材製造業労働災害防止協会滋賀県支部
ながはま森林マッチングセンター
中川仁男



安全な草刈り作業ができる服装、装備

- 袖締まりの良い
長袖上衣と裾締まりのよい
長ズボン
- 靴は滑りにくい丈夫なもの
- 肩バンドは左肩から右腰に
クロス(タスキ掛け)して装着
- 操作桿が右腰の位置に
なるよう肩バンドを調節
- フェイスシールドや
防じん眼鏡(ゴーグル)
- 保護帽(ヘルメット)は傾斜地
や水路周辺など転倒危険が
ある場合は必要
(着用は業務では義務化され
ている)



赤字表示は常に必要な安全装備

刈払い機の種類

肩掛式
(Uハンドル)



比較的広範囲の作業に適し、林業、農業、公園等の緑地管理に広く使われる(安全性が高い)

肩掛式
(ツוגリップ)



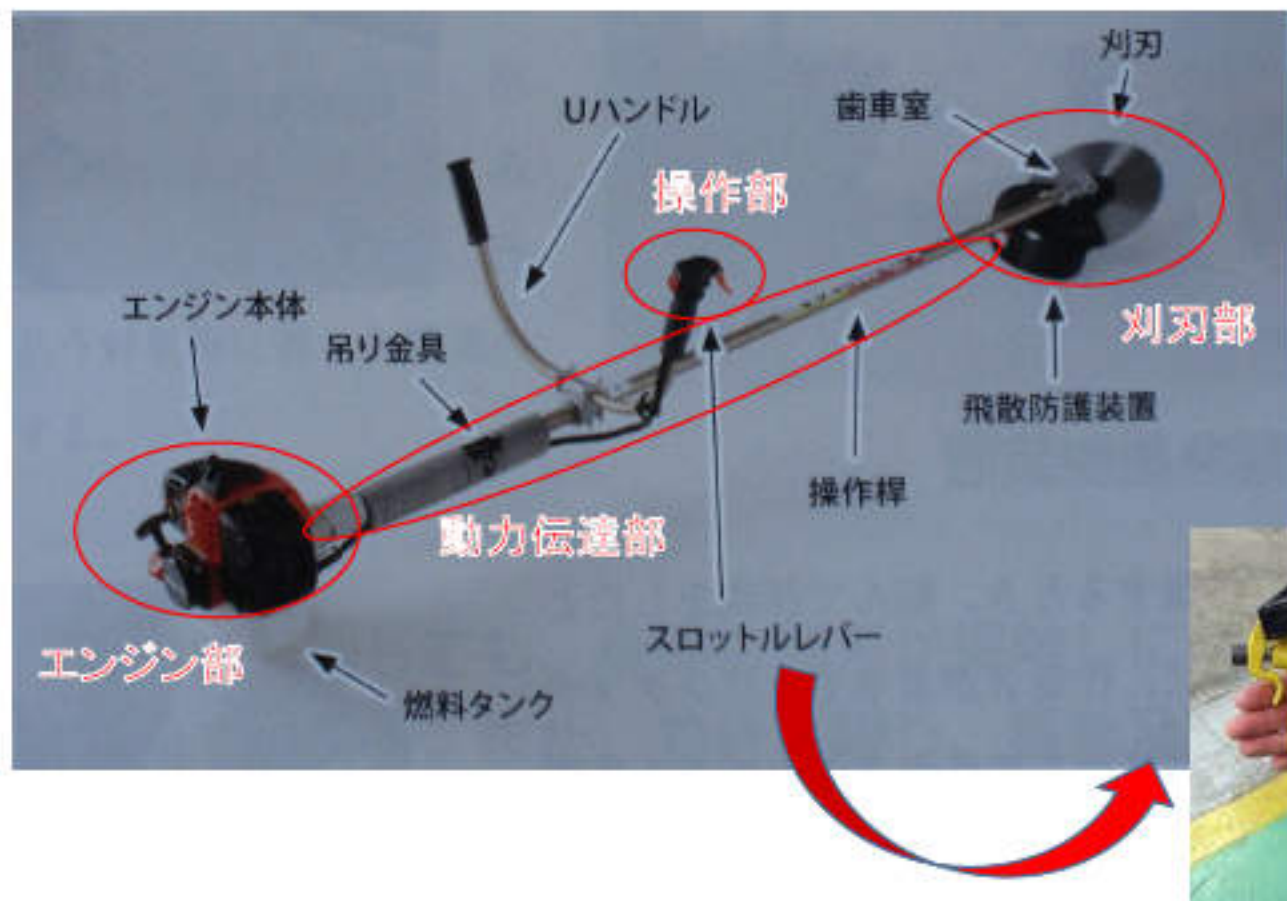
傾斜地、土手の法面での作業に適する。
吊りバンドを外し、竹ぼうきをもつように作業することは危険

背負式
(ループハンドル)



操作桿が前後左右に動かせる。林業、平地、土手の法面の作業に適する

刈払機の構造(1)



刈払い機の安全装置



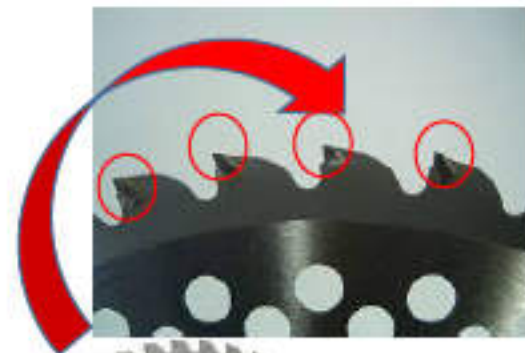
飛散防護カバー



緊急離脱装置

刈刃の選定(1)

～刈り払いの対象物に適したものを使用～



丸ノコ刃(林業の下刈用)



笹刈り刃(草刈、下刈用)



チップソー(草刈、下刈用)



8枚刃(草刈用)



4枚刃(草刈用)



ナイロンコード(草刈用) 6

刈刃の選定(2)

(初心者や障害物のあるところではNG)

～機械を使いこなせる熟練者が背丈の高い高密度で生えている
耕作放棄地や蔓性の草などで使用すると威力を発揮する～



2枚刃
(硬い茎、ツルが絡む
荒地の草刈用)



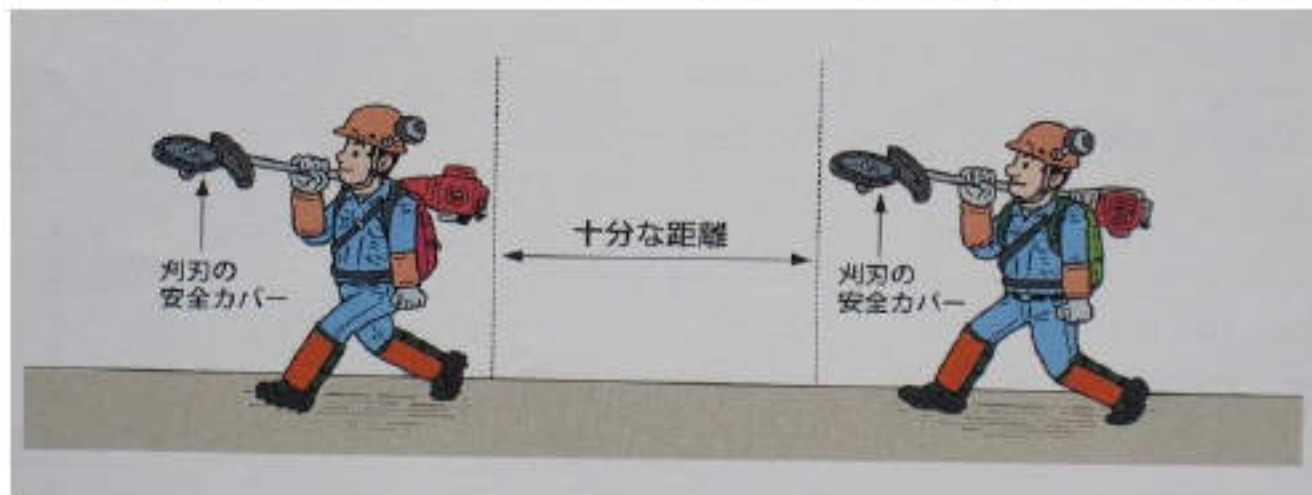
3枚刃
(硬い茎、ツルが絡む
荒地の草刈用)

作業の姿勢と機械操作



刈り払い機の持ち運び

～刈刃を前に、歩行者間の距離を十分保つ～



～作業場所を移動
するときは刈刃の
回転を必ず止めて
から移動する～



エンジンの始動時の注意

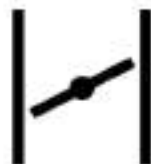
～機械を平坦なところに置き、安定させ、刈刃が地面その他障害物に触れていないことを確認し、スターターハンドルを引く～



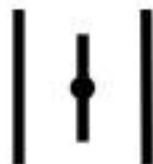
始動時はチョークレバーは閉じ、
エンジン音がしたら開くに戻す

イラストで表示される
チョークレバーの状態

閉



開



始動時、コントロールレバーが低速になっているか必ず確認
(高速になっていると、いきなり刃が回転して危険)

しっかり押さえる



刈刃への接触防止

防護カバーを外さない



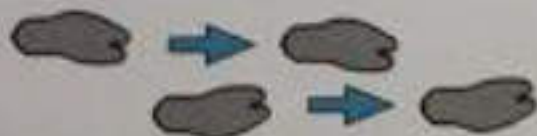
エンジンを止めずに
刈刃に触れない



作業移動の基本動作

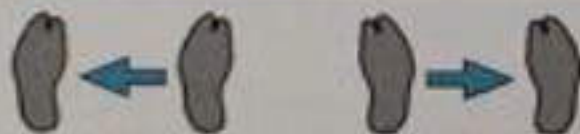
～腕だけで草刈り機を操作せず、
刈刃が常に体の正面になるように膝と腰を使う～

●前方に刈り進む場合



前進は右足から
(スリ足で行う)

●左右横移動して刈る場合



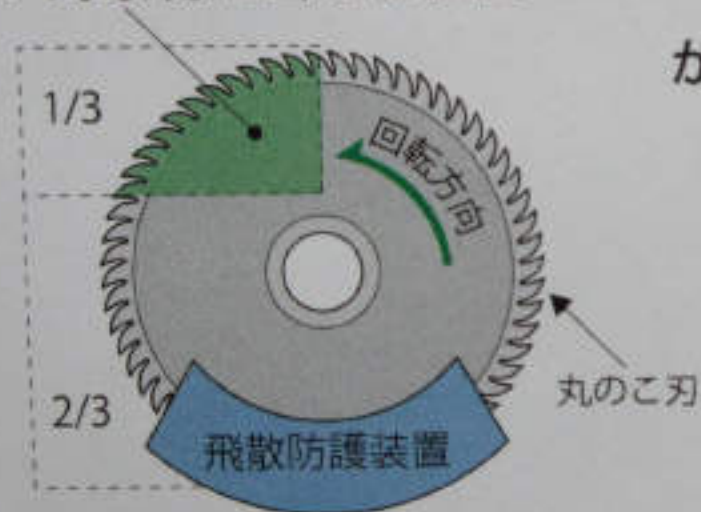
左への移動は左足から 右への移動は右足から
(移動は小刻みの足さばきで行う)

草を刈払う刈刃の位置

～刃の前方左3/1の部分で切断する～

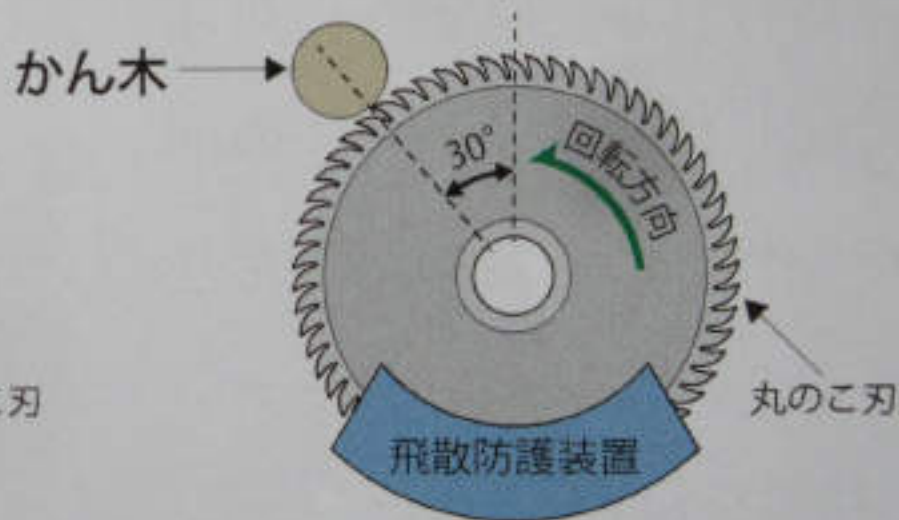
草類の刈払い位置

刈払い対象物に当てる位置



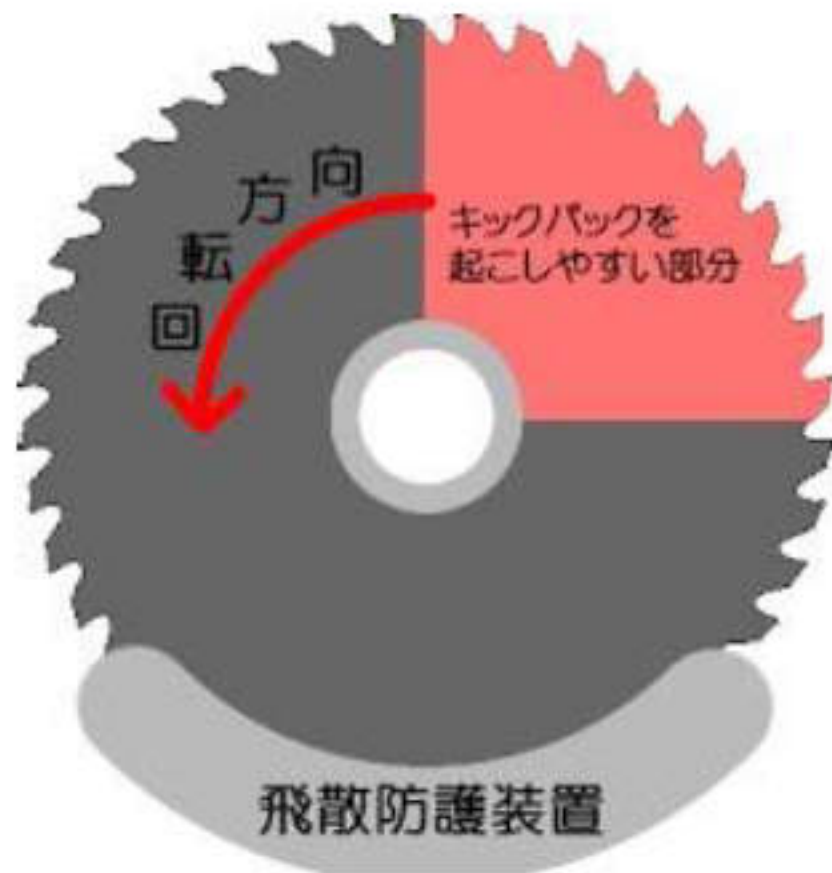
かん木等の刈払い位置

かん木



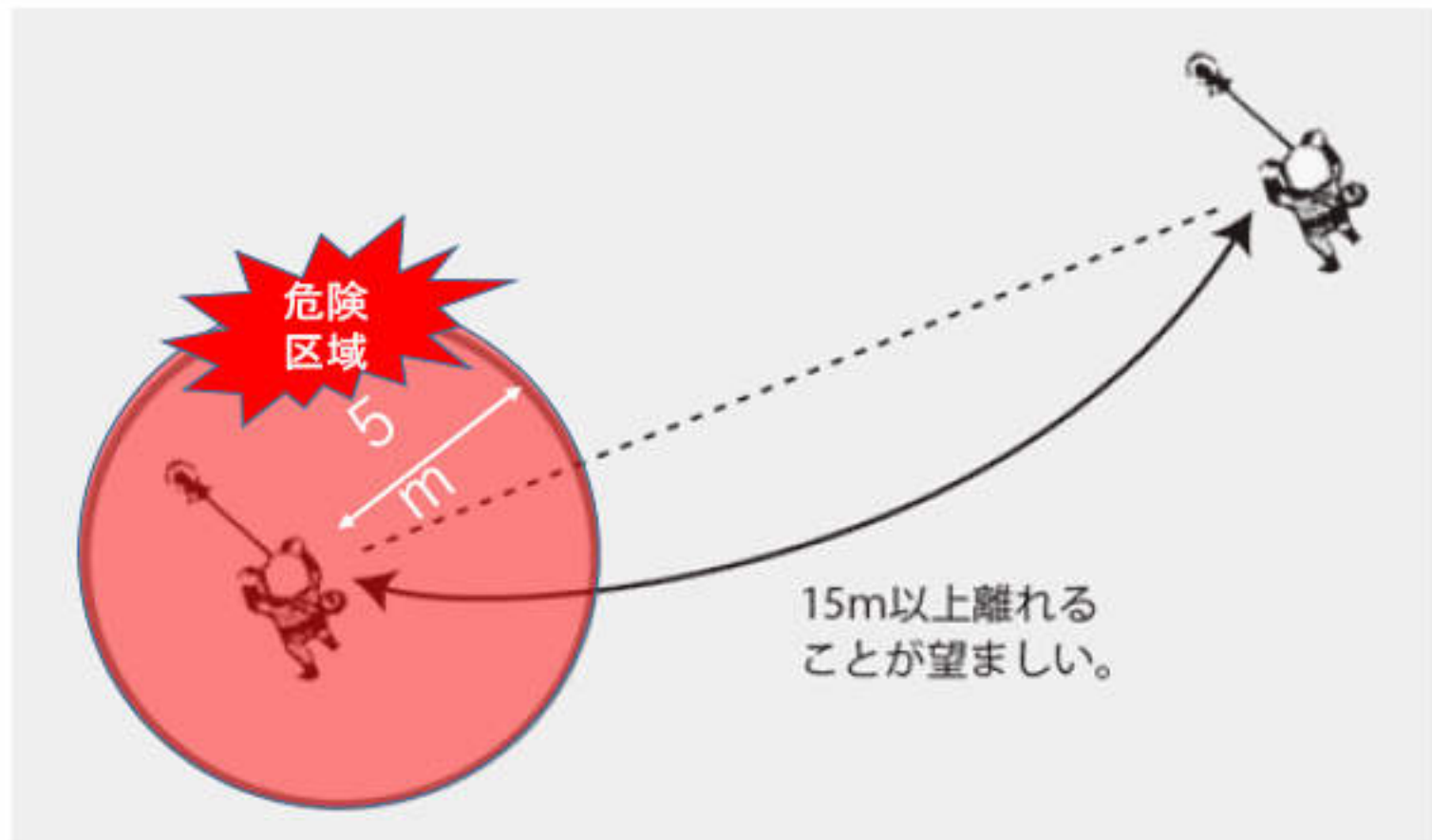
キックバックに注意

～刈刃が障害物にあたって
刈刃の回転方向の反対へ跳ね返る～



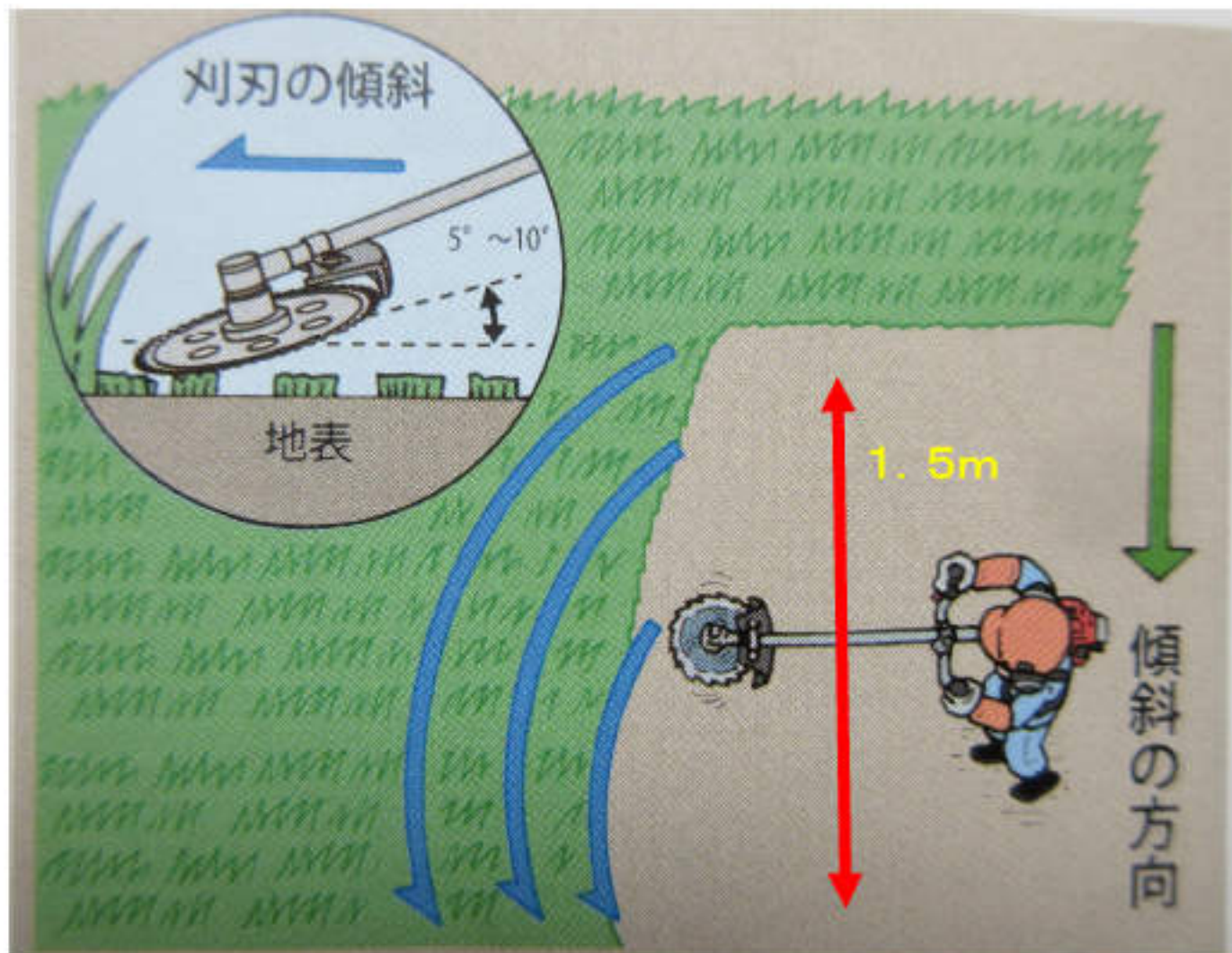
近接作業の禁止

- ～①作業から5m以内に立ち入らないこと
- ②作業者同士は15m以上はなれる～



刈払い作業の方法(1)

～刈り幅は1.5m程度とし、右から左に刈払う
(斜面の場合は斜面下方が左側になるように進む)～



急斜面での安定した歩き方

～硬い靴底の足首までホールドされている靴(登山靴と特徴が似た靴)
を活用することで安定した姿勢を保てます～



靴底のエッジを効かせた立ち方

柔らかい土の斜面での
上りキックステップ

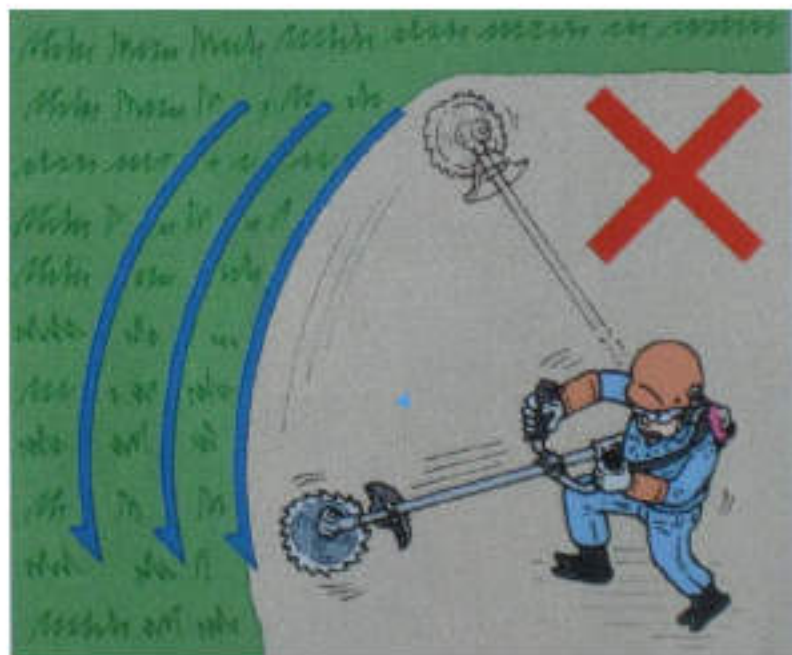


柔らかい土の斜面での
下りキックステップ



刈払い作業の方法(2)

大振りはしない



手に衝撃や刈刃が破損して
飛散する等して危険

往復刈りはしない



キックバックが発生したり、刃の戻りで
伐られた灌木などの小片が飛散する
等して危険

刈払い作業の方法(3)

腰より高い位置で刈払いは行わない



操作桿を高く持ち上げて作業することは振動負担が大きくなり、疲労や振動障害の原因になる

低木類の刈払いは直径8cmまで
(チップソーは5cmまで)



低木などは倒す方向に受け口切った後に反対側から追い口を切り切断する

刈払い作業の方法(4)

肩バンドを外し、操作桿をほうきのように持って作業はしない
(特にツוגリップの刈払い機はこの持ち方をしがちである)



キックバックが発生したり、滑ったときに足を負傷したりして大変危険

刈払い作業の方法(5)

急傾斜地では斜面の下方に向かって刈り進まないこと



足を滑らせたり、身体が不安定になり転倒して、
刈刃で身体を負傷する恐れがあり危険

障害物のある場所での刈払い

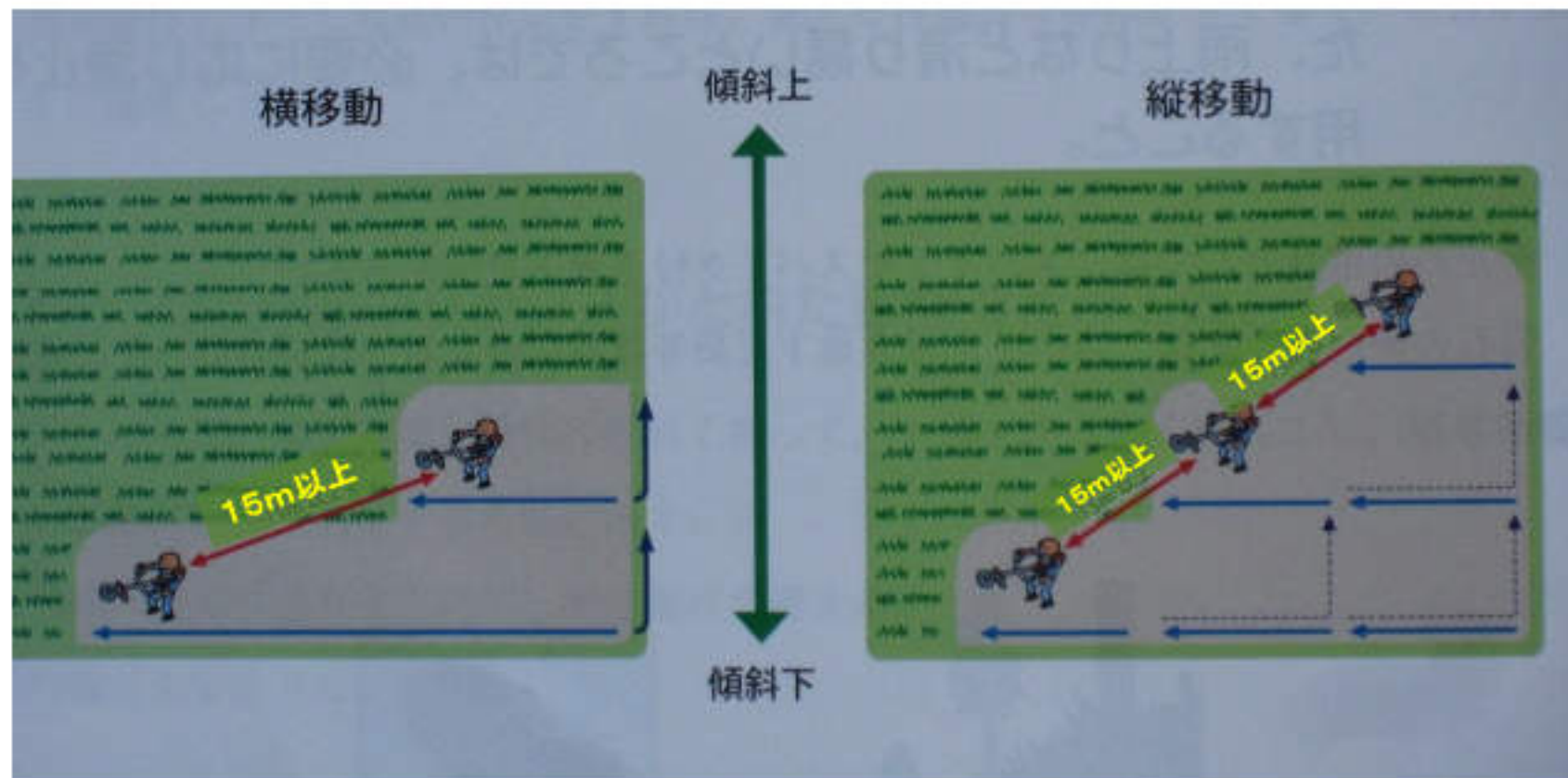


岩石、側溝、切株等の障害物が予想される箇所では高い位置で刈払い、安全を確認してから低く刈る



刈り払い作業の手順

～上下作業を避け、十分な間隔をとる～



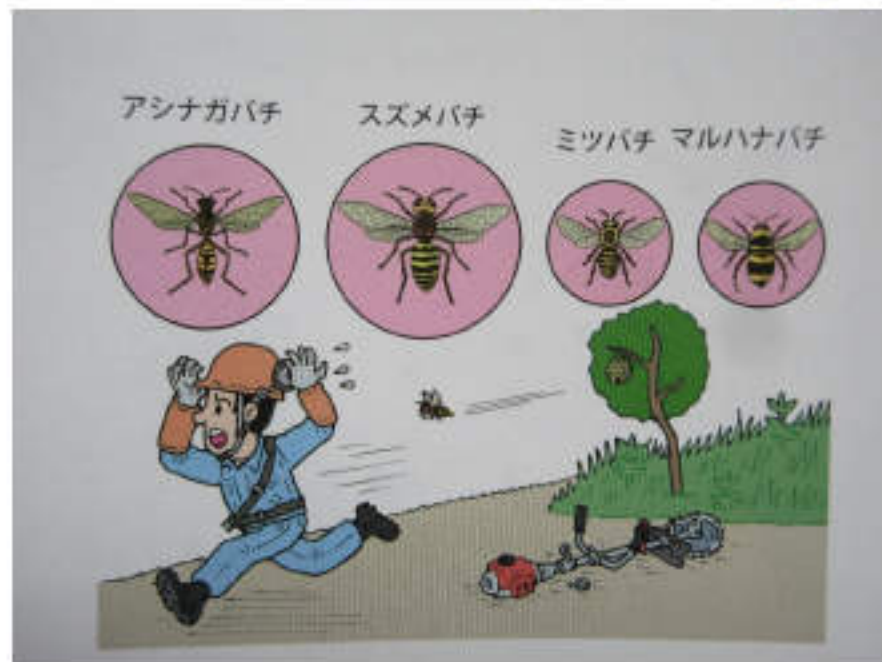
刈払い機の作業時間

～一連続作業時間は概ね30分以内、5分の休止時間を設け、
1日の操作時間は2時間以下(振動ばく露量値による)～



蜂刺されの予防と対策

～蜂の巣や蜂が近づいてきたら
遠ざかる。また予防策として防蜂網を着用～



蜂に刺され時の処置

- ・刺されたところをきれいな水で洗う
- ・ステロイド外用薬
- ・アナフィラキシー症状が疑われる場合は医師の手当てを受けるようにする

刈払機の点検・整備方

～毎日、毎週、毎月の3段階の点検、手入れが必要～

毎日点検(1)

●エンジン外部の汚れ

- エンジン外部のゴミや草を取り除く
- 油が付着している個所をふき取る
- 部品の損傷、変形がないか調べる



●エアクリーナの汚れ

- エンジン内へのゴミ混入を防ぐため、チョークを閉じてカバーを外す
- 軽くたたいてゴミやほこりを取り除く
- 汚れている場合は洗油で洗う



毎日点検(2)

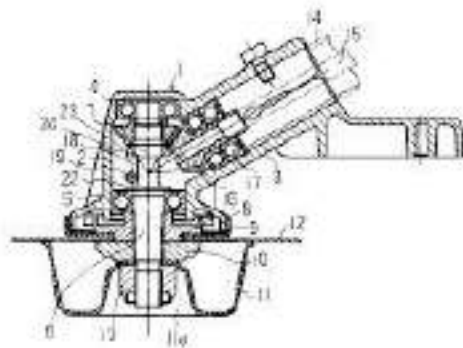
● 燃料タンクの空気穴の 目詰まり等

- タンクの空気穴(ふたの場合とエアブリーザが別に取り付けたものがある)が目詰まると燃料が供給されない
- 目詰まりしているときは、穴を通す(ブリーザの交換)



● 刈払部の歯車室周辺の汚れ ● 刈刃の損傷、変形の有無

- 刈刃を外し、歯車室に絡みついている草などを取り除く
- 刈刃の割れ、歯の欠けを点検
- 刈刃の締め付け不良になっていないか



毎週点検

● 燃料フィルターの汚れ

- 燃料フィルターが詰まるとエンジン回転不調の原因となる
- フィルターを燃料注入口から引き出して黒く硬くなっている場合は交換する



燃料フィルター



古

新品

● 刈払部の歯車室の潤滑状況等

- 潤滑油切れは、発熱から焼き付き、損傷へとつながる
- グリースを50時間毎に注入する



歯車室

毎月点検

●マフラーの汚れと損傷の有無

- マフラーの詰まり、破損は出力低下や火災を起こす原因となる
- 詰まっている場合はマフラーを取り外し、竹べらなどで掃除する。シリンダーの排気口のカーボンも同時に掃除する



●プラグの機能点検

- プラグの汚れ、カーボンのつまりや電極の間隙の広い狭いはエンジン不調の原因
- 先の細い工具で掃除する
- 電極の間隙は0.6～0.7mmに調整する



安全な作業とはいえないところを見つけてください(1)



安全な作業とはいえないところを見つけてください(2)



安全な作業とはいえないところを見つけてください(3)

